

2020年12月23日

保護者の皆様

啓明学院中学校・高等学校
校長 指宿 力

2学期終業に際して

主の御名を賛美いたします。

先週末に全校クリスマス礼拝をオンラインによって守り、いよいよ2学期終業の時を迎えています。今学期は8月24日から始まる、大変長い学期ではありましたが、生徒たちの活動が守られ、休校などの措置を取ることなく過ごすことが出来たことは大変嬉しく感じております。ここに至るまでには生徒たちの協力や優しさがあり、その背後にご家庭の深いご理解と温かい励ましがあったことを本当に感謝しております。そして今後しばらく続くと考えられるこのような時期を、知恵と思いやりの心を寄せ合って、これからも共に歩ませていただければと願っております。

今学期は予定していた高校2年生の修学旅行や合唱コンクールなどを行うことが出来ず、明星祭も例年とは大きく形を変えざるを得ませんでした。それでも中学3年生の修学旅行や校外学習、そして文化ホールという大きな舞台での明星祭など、いくつか実施することが出来た行事は生徒たちの良い経験となり、楽しい思い出としても心に残っているのではないのでしょうか。保護者の皆様に学校に足を運んでいただく機会は激減し、育友会活動などもままならない今年の歩みではありましたが、生徒たちのそのような楽しく豊かな経験も喜びとして共有し、成長の足跡としてお覚えいただければと願っております。

すでにお知らせしているとおり、3学期の1週目は「思いやりウィーク」として感染防止の意識を高めるのと共に、エッセンシャルワーカーの方々や感染症対策に臨んでおられる様々な方々のことを覚え、その働きに感謝し、神様のお守りを祈る時を持ちたいと考えております。そして、我々が互いに健康に留意して過ごすことと合わせ、キリスト教主義学校としての使命を覚える機会ともしていきたいと願っています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」

この箇所はクリスマスの時期にもよく読まれるヨハネによる福音書3章16節に記されている聖書の御言葉です。ここに記されている独り子とはイエス様のことです。その神の独り子イエス様は神の真理を自らの言葉と行いによって私たちに伝えられ、救い主としての歩みを全うされました。

クリスマス物語によるとそのイエス様の誕生は貧しい家畜小屋であったとのこと。それはイエス様が人間の貧しさや弱さの世界に誕生したということ象徴する出来事であり、神さまが貧しさや弱さと共にいてくださるといふしるしでもあります。そしてこれは、イエス様が貧しさや弱さを負って必死に生きている人間と徹底的に共にいてくださるといふことのしるしなのです。

コロナ禍のただ中に置かれ、不安を感じることも多くありますし、困難な状況に直面するときもあることでしょう。それでもイエス様が救い主としてこの世に与えられたことを祝うクリスマスにあたって、困難な時にこそイエス様が共に歩んでくださるといふこの降誕のメッセージを、私たちが今を歩む大きな力として受け止めていくことが出来ればと願っています。

どうぞ良いクリスマス、そして良い年末年始をお過ごしください。啓明学院に連なる全てのご家庭の上に、神様の祝福とお守りがあることを心よりお祈りしています。